

府中市・ウィーン市ヘルナルス区 友好協定締結30周年記念誌

30 Jahre Freundschaft HERNALS-FUCHU

2022





シュランメル四重奏噴水

シュランメル音楽とは、ウィーン民俗音楽の一種でヘルナルスが発祥地。ヘルナルスを活動拠点とした作曲家でバイオリニストのシュランメル兄弟の名にちなんで名づけられました。(ヴァイオリン2丁、コントラギター、アコーディオンによる四重奏)

INDEX

2 ご挨拶

10 写真で振り返る「青少年ホームステイ相互派遣事業」

12 写真で振り返る「市民交流」

14 第1章「友好交流のはじまり」

16 友好交流のはじまり

22 友好交流団体

26 第2章「交流のあゆみ」

28 青少年ホームステイ相互派遣事業

30 コラム：派遣事業参加者の感想

32 施設間友好協定①：小学校間での交流

34 施設間友好協定②：中学校間での交流

36 施設間友好協定③：教育施設での交流

38 施設間友好協定④：図書館での交流

40 コラム：日本とオーストリアの中の東京とウィーンの中の
府中・ヘルナルスの友好30年に寄せて

41 コラム：府中市とヘルナルス区の社会支援について

42 伝統文化交流

44 音楽交流

46 スポーツ交流

48 コラム：自治体レベルの交流

49 コラム：ヘルナルスから府中への旅

50 コラム：姉妹都市 佐久穂町

51 コラム：府中—佐久穂—ヘルナルス—マリア・ラッハ

52 第3章「これまで、そして未来へ」

54 ヘルナルス・府中の交流事業年表

58 勲章

59 おわりに

60 資料編：府中市・ヘルナルス区の紹介

62 資料編：季節だより

64 資料編：単語集



ご挨拶

府中市長
高野 律雄



1992(平成4)年8月19日にオーストリア ウィーン市ヘルナルス区と友好協定を締結してから、本年で30周年を迎えました。締結以来、青少年ホームステイ相互派遣事業を中心に友好関係を築いてまいりました。

日唄修好150周年の節目であった2019(令和元)年には、ウィーン市から若手音楽家をお招きし、ヘルナルス区発祥のシュランメル音楽をはじめ、ウィーンの伝統的な音楽のコンサートを開催したほか、ヘルナルス区友好訪問団による料理講習会や交流会を実施し、ヘルナルス区民と府中市民が直接交流できる場を設けました。また、長年にわたる交流の実績が評価され、本市は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたオーストリアのホストタウンとして登録され、大会直前には卓球オーストリア代表チームの事前キャンプが市内で行われました。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりチームと市民との交流の機会を設けることはできませんでしたが、両区市の交流の積み重ねが東京2020オリンピックでの関わりにつながったものと実感しております。

現在、日本国内では、海外の都市と友好協定を締結している自治体は約900に上りますが、具体的な交流の継続が難しい例も少なくないようです。本市では青少年ホームステイ相互派遣をはじめ、学校間、施設間交流等多方面にわたる交流を30年にわたり継続できておりますことに、大変喜びを感じます。これもひとえにヘルナルス区及び本市双方の関係者の皆様の多大なるご尽力の賜物と存じ、厚く御礼申し上げます。

30年の間には国際情勢の悪化や新型コロナウイルスの感染拡大など、両区市の交流にとって障壁となる出来事もございましたが、これまでに培ってきた友好の絆が揺らぐことは決してありません。将来にわたって友好関係が継続され、両区市の発展に寄与しますことを心から祈念いたします。



Grußworte



ヘルナルス区長
ペーター・ヤクシュ

ヘルナルス区が東京都府中市と友好協定を締結してから30年が経ちました。それ以来、我々は日本からの大切な友人達とパートナーとしての良好な関係を保ってきました。その間、活発な文化交流、多様な地域、経済、社会面での協力を深めてきました。新型コロナウイルス感染症のため、活動は一時的に中止せざるを得ませんでしたが、相互の多大な努力により確実に再開へと導かれることでしょう。そのことを我々は心待ちにしています。

多くの区民及びローベルト・プレーガー元区長、ハンス・メンチク元区長、イルセ・プフェッファー前区長の前向きな姿勢および尽力により府中市とヘルナルス区の間を続けることができました。特にプレーガー氏に心より感謝いたします。在任中(1979年～1997年)にこの関係を強力に推し進めてくれました。そのみならず、プレーガー氏は2008年に創立されたヘルナルス・府中友好協会の会長として大活躍し、我々のパートナーシップを発展させています。その功績のため、日本政府より「旭日双光章」を2021年4月29日に授与されました。この勲章は、駐オーストリア大使 水谷章氏により2021年11月に手渡されました。私もプレーガー氏を心から祝福します。彼は、府中市とヘルナルス区、日本とオーストリアの友好関係における相互理解を深めることに多大な貢献されたので、この勲章は卓越した努力の結晶といえるでしょう。



ご挨拶



NPO 法人府中国際友好交流会
理事長 内藤 和良

ウィーン市ヘルナルス区と府中市とのお付き合いはもう30年になります。

府中国際友好交流会会員の皆様、行政関係者の皆様におかれましては、常々交流会事業にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

30年前、当時の市長は故・吉野和男氏でした。府中市が国際友好都市提携の実現を模索していた1992(平成4)年、故・杉田道雄氏は、当時助役であり、実質上の責任者としてヘルナルス区との友好都市提携を具体化されました。また退任後も、市民レベルの交流の要となって活躍してこられました。よく仰っていたことは「私がかねてより、多くの国が国境を接し、切磋琢磨しながら育まれてきたヨーロッパの民主主義こそ真の民主主義と、憧憬の念を抱いていた。ウィーンへの青少年ホームステイ派遣事業は、若者たちにその一端でも体感してもらい、世界に雄飛する国際感覚を身につけてほしい、と願うところから始まっている。」ということでした。

私は交流会に関わったのがきっかけで欧州の民主主義を体感し、国際感覚を身につけるとはどんなことなのかよく考えます。

歴史を振り返るとヨーロッパ大陸では様々な民族が自己を主張し合うなか、力の均衡によって平和と戦争が繰り返されてまいりました。戦乱が止んで未だ75年あまり、現在では域内での人の移動が容易になり交流もずっと盛んになっていますが、一人ひとり自らの出自を心得、誇りを持っています。国境を超え人・物・金の移動が自由になっても、個人の人格や存在のアイデンティティが薄まることはありません。大勢の中で存在を見失わないため自己主張することが身につけているのでしょうか。

派遣生の報告書の中で、「何処へ行きたいか?」「今日の政治についてどう思うか?」などホストファミリーにあまりに意見を求められ戸惑ったというものがありました。私達日

本人は普段、相手の様子を観て、相手の考えや行動に思いを巡らし話し合うのが普通です。島国に昔から住み続け、ほとんど同一言語 同一民族である我々の身についた性でしょうか。そして大袈裟に言えば自己主張する人々と、相手の様子を見る人々、これはもう文明の違いです。

民主主義と言っても私達と彼の国では主となる民の育ちが異なるわけですから当然それぞれに、それぞれの民主主義があるわけで、この文明の違いを深く識ることが国際感覚を身につけることであると思うのです。民主主義は人類が生み出した知恵の一つですが、更に地球には他にもいくつもの文明があります。この交流事業を契機に、互いの派遣生をはじめとした関係者が国際感覚を鍛えていければなによりであると願っております。

世界はコロナ禍で消沈しております。青少年ホームステイ相互派遣事業も三度中止に追い込まれました。しかし、人類誕生以来こんなことは何度も起きています。知恵を働かせこの禍を正しく怖れ、悠然と対応していきたいものであります。

おわりに、この30年の来し方を振り返り、故・杉田道雄氏の業績に対し改めて感謝いたします。そして皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ挨拶といたします。





Grußworte



ヘルナルス・府中友好協会

会長 ローベルト・プレーガー

府中市とウィーン市ヘルナルス区の友好協定の関係は1992年8月19日に築られました。この協定は、当初互いの最も重要な計画を記しただけの一枚の紙でした。それは、当時もまた今日にいたるまで、特に文化、教育、経済の分野における継続的な交流を約束するものです。我々の市民に、個人的により良く知り合う機会を提供するためにあるものです。それにより友情が芽生え、お互いの信頼がはぐくまれ、世界平和に少しでも貢献できるのです。私達のパートナーシップができて30年になりますが、その間数々の成果を上げることができ、活発な活動を続けてきました。

高校生のために、毎年ホームステイ派遣事業が行われています。特に青少年達がこの友好協定を開花させるために一役買ってくれることを期待しています。

お互いに何度も府中市とヘルナルス区を訪問することによって、市民がより良く知り合い理解できるようになりました。

東日本大震災でも我々の友情を証明することができたと思います。「困ったときの友こそ真の友」といわれるようにヘルナルス区の人々は助け合いの精神を大いに発揮してくれました。

この記念誌には、1992～2022年に行われた交流のあゆみが書かれており、多くの計画が積極的に成されたことを証明しています。中には、非常にうまくいったものもあれば、実現できないものもありました。

読者の皆様がこの記念誌を読んでいただければ、友好協定というのが決して一枚の紙ではないということがお分かりになっていただけたと思います。異文化の人々がコンタクトを持ち、それをより深めようとする努力において、二つの自治体が活動的かつ継続的な貢献をしているということです。



ご挨拶

府中市議会
議長 村崎 啓二



オーストリア ウィーン市ヘルナルス区と府中市が友好協定を締結してから、本年度30周年を迎えました。1992(平成4)年から現在まで交流が継続できておりますことは、ヘルナルス区及び本市双方の関係者の皆様の多大なるご尽力の賜物と存じ、深く感謝申し上げます。

府中市議会としましても、友好協定の締結の翌年の1993(平成5)年を初めとし、計7回ヘルナルス区への表敬訪問を行いました。私自身は1997(平成9)年10月に参加し、メトロポール劇場や区役所を訪問させていただいた他、ヘルナルス区議会議員の皆様との意見交換会に出席するなど貴重な体験をさせていただいております。

2017(平成29)年の表敬訪問の際には、東京2020オリンピックに向けた卓球オーストリア代表選手団の事前キャンプの誘致に向けたご支援を賜り、訪問期間中にオーストリア卓球連盟、オーストリアオリンピック委員会との面談が実現し、府中市での事前キャンプの実施へとつながりました。

このように、ヘルナルス区と府中市との友好関係から多くの交流が生まれましたが、両区市にとって一番の財産となっているのは、毎年夏に行われている青少年ホームステイ相互派遣事業です。両区市の未来を担う青少年が異文化を実体験し、相手の立場に立って互いを理解し、更にはそうした差異からそれぞれの強みを引き出して新しい価値を生み出すことができるグローバルな人材として羽ばたいてくれるものと期待しております。

結びに、ヘルナルス区と府中市の友好関係が、今後ますます深まっていくことを願いますとともに、皆様のご多幸を心から祈念申し上げます。



Grußworte



前ヘルナルス区長
イルセ・プフェッファアー

府中市とヘルナルス区の友好関係は、30年間にわたる集中的な交流と様々な行事に、その歴史を顧みることが出来ます。

その中でも、高校生のホームステイ相互派遣事業は、両市区の友好関係の中心ともいえる事業に発展しました。この事業は、若者達がそれぞれの相手国で、新しい経験をする機会を提供しています。ホームステイ先の家庭の中で、異文化を自分の肌で体験するのです。

また、ヘルナルス区の小中学校、高等学校の生徒達も、府中市の生徒達と活発な交流を深めています。更に、府中市側からの政治、経済、そして文化面での代表団によるウィーン来訪も、この交流関係のポジティブな発展をサポートしています。年月と共に、数多くの公式な場での出会いを通じて、多くの個人レベルでの友情関係も生まれています。

友好協定締結20周年を記念して府中市長・高野律雄氏が訪問団と共にヘルナルス区を訪問したことは、強く印象に残っています。この代表団には、武蔵国府太鼓連盟の方々も含まれており、区の中心部での素晴らしい演奏は、集まった観客に大きな感動を与えてくださいました。大太鼓は、我区への寄贈品として送られ、それ以来、エルタライン広場にあるエカツェント(EKAZENT、区のショッピングモール)に展示されています。

もう一つのハイライトは、2019年の日本とオーストリアの修好150周年記念でした。再度市長・高野律雄氏が、府中童謡の会の皆さん、元宮廷楽師・岩波滋氏と共にヘルナルス区を来訪されました。

今回のパンデミックによる弊害が、国際的な交流、旅行、そして遠い国々の探検、長年培ってきた友好関係維持に、如何に影響を与えているかを痛感するばかりです。

ご挨拶

駐オーストリア特命全権大使
水谷 章



ヘルナルス区と府中市の友好協定30周年、おめでとうございます。

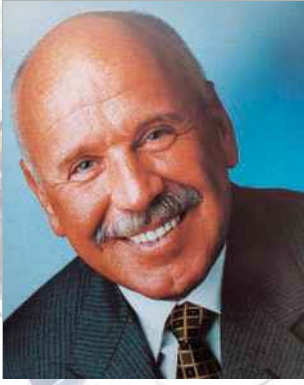
ヘルナルス区と府中市の交流の立ち上げと発展に尽力され、日墺友好関係に寄与されたヘルナルス区と府中市の関係者の皆様、ヘルナルス・府中友好協会、府中国際友好交流会に敬意と感謝を申し上げます。

日墺交流を推進することは、日本政府の、そして在オーストリア日本国大使館の役目ですが、人と人が実際に関係を深める草の根の交流は皆さんの日々の活動があってこそ実現するものです。ヘルナルス区と府中市の交流で主軸となっている青少年ホームステイ派遣事業は、オーストリアを訪問した府中市の青少年にとって有意義な学びの場であり、彼らの将来にとって大きな糧になっていることを確信しています。

ヘルナルス区中心部を歩くと、区庁舎前にある25周年祝賀行事の写真や、ショッピングセンターにある20周年記念に府中市から寄贈された武蔵国府太鼓が必ず目にとまります。これらはヘルナルス区と府中市の交流の深い絆を私たちに思い起こさせてくれます。これらを目にする度に、日本人である私はとても誇りに思います。

長きにわたる交流の礎を築かれたことに敬意を表し、2021（令和3）年、日本政府は日墺交流の発展に寄与されたローベルト・プレーガー元ヘルナルス区長に旭日双光章を授与しました。この叙勲はプレーガー元区長への感謝を、そしてその交流活動を共に進めてくださった皆様への感謝を示すものです。

30周年を機として、ヘルナルス区と府中市の友好関係のますますのご発展を祈念いたします。



元ヘルナルス区長
ハンス・メンチク

Grußworte



府中市・ヘルナルス区の友好協定締結30周年に寄せて、心からお祝いを申し上げます！

今年は友好協定締結30年の節目を迎えますが、この交流は世界平和の維持のために小さな貢献を果たしてきたに違いありません。とりわけ私は高校生たちがホストファミリーの元に滞在する青少年ホームステイ相互派遣事業を常に歓迎してまいりました。

私は3回に及ぶ日本訪問で、国、文化、人々について知れただけでなく、特別な友情を結ぶことができました。

そのような折、誰も考えもしなかったことが、残念ながら現実に起こってしまいました。

本日(2022年3月6日)、2022年にヨーロッパの真ん中で勃発した侵略戦争の11日目に私はこの文章を書いています。核を保有する一国が狂気の目的を追い求めています。皆様がこの文章を読むころには、すべてが良い方向へ転換していて、平和が支配していることを願っております。

そのような意味においても、私は府中市とヘルナルス区両パートナーの友好関係のますますの発展と平和的共存を祈念いたします。

皆様にご多幸あれ！

「青少年ホームステイ相互派遣事業」



ヘルナルス区派遣生の府中滞在時

1 富士山五合目観光(2016年度) / 2 浴衣姿のヘルナルス区派遣生とホストファミリー(2002年度) / 3 郷土の森博物館見学(2016年度) / 4 大國魂神社参拝(2019年度) / 5 ランチにそばを試食(2017年度)



6



7



8



9



10

府中市派遣生のヘルナルス区滞在時

6 ウィーン市街見学(2015年度) / 7 ワルツ講習会(2010年度) / 8 ホストファミリーとの集合写真(2010年度) / 9 サツハトルテ作り体験(2019年度) / 10 帰国後の振り返りと作成パネル(2016年度)

写真で振り返る
「市民交流」



ヘルナルス区友好訪問団の府中滞在時

1 富士山頂登山を達成(2002年7月) / 2 市長を表敬訪問(2013年10月) / 3 郷土の森博物館にて餅つき体験(2013年10月) / 4 太鼓パレードを観光(2014年10月) / 5 国司に扮して集合写真(2009年10月)

Austausch auf Bürgerebene



府中市民友好訪問団のヘルナルス区滞在時

6 区ショッピングモールにて府中囃子を披露(1994年6月) / 7 ザッハトルテ作り体験(2012年6月) / 8 区ショッピングモールで盆踊り(2012年6月) / 9 太鼓を寄贈(2012年6月) / 10 小学校で空手体験(2019年5月)